

男性看護師の性差の強みと困難を伴う経験から得た気づきの考察 —男性看護師へのインタビューを通して—

病棟 5 階 A 寺岡史登 山崎龍也 養藤雄太
万場みどり 大倉広子 松本美和 吉持智恵

はじめに

平成 12 年に日本の男性看護師は看護師総数のうち 3.4% (22,189 名) であった。しかし、平成 22 年には 5.6% (53,748 名) まで増えている。今後男性看護師はさらに増えるであろうと予想される。近藤らは、男性看護師の望まれる役割について「男性看護師は「優しさ」と、「力強さ」という両側面を併せ持つこと」¹⁾と述べている。また新山らは、「男性看護師は一貫性に優れており患者への接し方において安定した知識・技術を提供できる。」²⁾と述べている。

そこで、男性看護師ならではの看護実践を明確にしたいと考え、A 病院の男性看護師にインタビューをし、調査を行った。

I. 研究方法

1. 研究対象者

A 病院の経験年数 3 年目以上の男性看護師 31 名中同意を得られた 15 名

2. 研究期間

平成 25 年 6 月 30 日～11 月 15 日

3. 研究方法

対象者に個別にインタビューガイドを基に半構成的な面接を行った。面接場所は、プライバシーが保護され、静かで落ち着いた場所を選定し、1 人 15 分から 20 分程度で 1 回の面接を行った。面接時、対象者の承諾を得て会話内容を IC レコーダーに録音した。インタビューガイドは研究者自らが作成したものを使用した。(資料 1)

4. 倫理的配慮

対象者に同意書・研究依頼書を用いて研究の目的・意義を説明し、書面にて参加の承諾を得た。インタビューはプライバシーが保護されている場所で行い、インタビューの内容は対象者の承諾を得て IC レコーダーに録音した。IC レコーダーに録音された内容は研究以外の目的に使用しない事、録音されたデータは個人が特定されないよう配慮した。また、録音内容は口外しない事、研究終了後は、IC レコーダーに録音されたデータは消去する事、研究に協力しない権利、参加の拒否により業務上の不利益が生じない事、同意を得た後でも辞退できる事を説明した。

5. 分析方法

インタビュー内容の分析にはグラウンデッド・セオリー法を使用した。

II. 結果

1. 平均年齢 32.5 歳 平均経験年数 8.3 年
2. 分析結果：コード 119、サブカテゴリ数 42（以下サブカテゴリは〈 〉と略す）、カテゴリ数 10(以下カテゴリは[]と略す)(表 1)

[女性看護師ではないためのケアの工夫]

〈羞恥心を伴うケアでは女性スタッフに代わる〉〈女性看護師に代われない場合は患者に了承を得る〉〈女性看護師の対応を見習う〉〈女性看護師とのコミュニケーション能力の差を補うために声質をワントーン上げる〉〈女性看護師に担当を代わられることを説明しておく〉〈先輩の女性看護師に相談する〉〈ケアを行って良いか患者に確認を行う〉

[老年女性から受け入れやすい]

〈高齢患者からの印象が良い〉〈老年患者が自分の性別を意識する機会になる〉〈高齢患者が多いので性別を意識する患者は少ない〉

[男性患者から必要とされる]

〈思春期の男児や若い男性患者と信頼関係を築きやすい〉〈男性患者から羞恥心を伴うケアを受け入れやすい〉〈患者から必要であると言われる〉〈女性看護師から男性患者の羞恥心を伴うケアを任される〉

[女性患者への羞恥心を伴うケアが困難]

〈女性の羞恥心を伴うケアでは介入できない〉〈思春期の女性患者の介入が難しい〉〈働けない診療科がある〉

[男性看護師に対する負のイメージ]

〈雰囲気にかさや母性・心情理解力に欠ける〉〈短気な人が多く顔や行動に出やすい〉〈女性看護師の方が気づく点が多い〉〈雑や乱暴という印象がある〉

[女性看護師に比べ体力がある]

〈女性に比べ力が強い〉〈女性に比べ体力がある〉〈不穏患者の対応は率先して行う〉

[職場での少数派]

〈少数派であり意見が言えない〉〈先輩、同期の男性看護師に相談する〉〈女性が多い環境であることを受け入れる〉〈経験年数を重ねると自分の意見が言える〉〈男性看護師が一般的な職業と認められれば患者が受け入れやすくなる〉

[理論的な思考と ME 機器が得意]

〈女性に比べ理論的な考察が得意〉〈知識があり細かい配慮ができる〉〈女性看護師とは違った視点のアセスメントが行える〉〈ME 機器に強い〉

[専門性を強める努力をしている]

〈勉強会や研修に積極的に参加するようにしている〉〈自ら勉強会し知識を身につけるようにしている〉〈学会に参加している〉〈指導者としての経験を積んでいる〉〈専門的な資格を取るようにしている〉

〈研究をしっかりと行う〉〈大学の修士課程に通っている。博士課程にもいきたい〉〈資格を持っている先輩から助言を受ける〉〈勉強するように心がけている〉

Ⅲ. 考察

男性看護師の弱点として[女性患者への羞恥心を伴うケアが困難]というカテゴリが抽出されている。このことに対して多間らは「最初断られても、ケアや技術により信頼関係を築き、男性看護師への理解を深める事でケアを受け入れてもらう事は可能になる。」³⁾と述べている。当研究においても〈ケアを行って良いか患者に確認を行う〉、〈女性看護師に担当を代われることを説明しておく〉など[女性看護師ではないためのケアの工夫]というカテゴリが抽出されており、信頼関係を築けるよう配慮している。

また、〈雑や乱暴という印象がある〉、〈短気な人が多く顔や行動にでやすい〉など[男性看護師に対する負のイメージ]が抽出されている。これについて松浦らは、「少数派である男性看護師の何気ない行動が男性看護師全体のイメージとして捉えられやすい現状がある。しかし、男性看護師はそういったイメージを持たれやすいという事を理解した上で指摘されたことを受け止め改善しようと行動に移すことで男性看護師の看護の質の向上、男性看護師全体のイメージの向上につながる」と述べているように、男性看護師一人ひとりが行動に気をつける必要がある。松尾らは「少数派では配置率が低いほどストレスサーに対する知覚が高く、少数派である男性看護師が働きやすい環境への配慮が必要」⁵⁾と述べている。当研究においても〈少数派であり意見が言えない〉と職場での少数派の困難を感じていることが分かった。この問題を最小限にするためにも、同じ部署には2人以上の男性看護師を配置するような配慮が必要であると考ええる。

男性看護師の強みとしては〈男性患者から羞恥心を伴うケアを受け入れられやすい〉、〈女性看護師から男性患者の羞恥心を伴うケアを任される〉など[男性患者から必要とされる]というカテゴリが抽出されている。異性の看護師によるケアを拒否する患者への対応は、できる限り同性がケアを行うよう配慮し、看護師間で協力し合って看護を提供する事が望ましいと考える。

さらに、男女を問わず高齢者から受け入れられやすく、〈高齢者からの印象が良い〉、〈高齢者が多いので性別を意識する患者は少ない〉と答えていた。中には〈老年患者が自分の性別を意識する機会となる〉といった性別を改めて意識したという意見もあり、[老年女性から受け入れられやすい]というカテゴリの抽出につながった。

また、〈女性に比べ力が強い〉、〈女性に比べ体力がある〉、〈不穏患者の対応は率先して行う〉など[女性看護師に比べ体力がある]というカテゴリが抽出されており、腕力や体力など力がある事を自覚し、力が必要な場面で積極的な参加を心がけている事がうかがえる。患者のみならず女性看護師からも力が必要な場面で頼りになる存在として認識されているのではないかと考える。

そして、〈女性に比べ産休や寿退職が少なく継続して長期間勤められる〉、〈一生続けるつ

もりである)などの[女性に比べ生涯継続して働きやすい]というカテゴリが抽出され、継続して勤めることができ、スペシャリストなど専門性を伸ばしやすいと考えられる。当研究でも〈専門的な資格をとるようにしている〉、〈勉強するよう心がけている〉などの[専門性を強める努力をしている]のカテゴリが抽出されている。これについて、津野らは「内的要因(自分の能力をどう発揮するか自分がしたいことは何か)が明確になることで、自分がこの先どのような看護師になりたいのかという具体的なキャリアビジョンを抱くことができるようになると考える」、さらに「内的要因の明確化は、男性看護師が周囲から認められ、看護師としてのやりがいを感じる事で促進されると考える」⁹⁾と述べている。当研究で男性看護師の強みとして〈女性に比べ論理的な思考が得意〉、〈ME 機器に強い〉など[論理的な思考と ME 機器が得意]というカテゴリが抽出されており、これら男性看護師が強みに感じていることを認めることで内的要因の明確化、ひいては専門性を深めスペシャリストを目指すことにもつながっていく重要な要素であると考えられる。

IVまとめ

1. 男性看護師は女性患者への羞恥心を伴うケアが困難であるが、ケアを工夫し、信頼関係を築けるよう配慮している。
2. 男性看護師は少数派であり、負のイメージが目立ちやすい。そのため、一人ひとりの行動に注意が必要である。また少数派の困難を最小限にするため、同じ部署に2人以上の男性看護師を配置するというような配慮が必要である。
3. 羞恥心を伴うケアは同性が提供できるように調整する事が必要である。
4. 男性看護師は力を持っている事を自覚しており、患者、女性看護師から頼られる存在である。
5. 継続して働けること、論理的な思考と ME 機器が得意などの強みを認めることが内的要因の明確化となり、専門性を深め、スペシャリストを目指す重要な要素である。

引用文献

- 1) 近藤大志、他:一般病棟における男性看護の役割、看護学会論文集看護総合、第 38 号、115-117、2007
- 2) 新山英和、他:一般病棟における男性看護師の関わりと患者の認識の変化、日本看護学会論文集看護管理、第 35 号、369-370、2004
- 3) 多間嗣朗、他:羞恥心を伴うケアにおける男性看護師の関わり、日本看護学会論文集看護管理、第 37 号、33-35、2006
- 4) 松浦圭吾、他:一般病棟における男性看護師が感じる困難とその対処に関する研究、43 回日本看護学会論文集看護総合、227-230、2013
- 5) 松尾新也、他:男性看護師の配置率とストレスに対する知覚との関係—A 県の総合病院に勤務する男性看護師の質問紙調査より—、第 38 回日本看護学会論文集看護総合、

366-368、2007

- 6) 津野亜優実、関井愛紀子：男性看護師が抱くキャリアビジョンとキャリアアップに対する思い—世代間における比較検討—、第42回日本看護学会論文集看護管理、553-556、2012

参考文献

厚生労働省平成22年衛生行政報告例(就業医療関係者)結果の概要

(資料1)

インタビューガイド

1. あなたの年齢を教えてください。
2. あなたの性格について教えてください。
3. あなたは結婚していますか。
4. 子どもはいますか。
5. なぜ看護師になろうと思いましたか。
6. 看護師としての経験年数を教えてください。
7. あなたが持っている資格について教えてください。
8. あなたがついている役職について教えてください。
9. あなたが現在働いておられる病棟について説明してください。
10. その病棟で働きはじめて何年になりますか。
11. あなたが過去に働いたことがある現場または病棟について説明してください。
12. そこではどれくらい働きましたか。
13. 男性看護師の強みと感じている点がありますか。
14. その理由は何ですか。
15. 男性看護師の弱みと感じている点がありますか。
16. それについてどのように対処しましたか。
17. その対処法でその問題を解決できましたか。
18. 看護師として働く上で気をつけていることはありますか。
19. 患者への精神面のケアについて気を付けている点がありますか。
20. 看護師は一生続けるつもりですか。
21. あなたが目標とする看護師像はありますか。
22. 目標に向かってどのような努力をしていますか。

(表 1)

| カテゴリ | サブカテゴリ |
|-------------------|--|
| 女性看護師ではないためのケアの工夫 | 羞恥心を伴うケアでは女性スタッフに代わる |
| | 女性看護師に代われない場合は患者に了承を得る |
| | 女性看護師の対応方法を見習う |
| | 女性看護師とのコミュニケーション能力の差を補うために声質をワントーン上げるようにしている |
| | 女性看護師に担当を代われることを説明しておく |
| | 先輩の女性看護師に相談する |
| | ケアを行って良いか患者に確認を行う |
| 高齢患者から受け入れられやすい | 高齢患者からの印象が良い |
| | 老年患者が自分の性別を意識する機会となる |
| | 高齢患者が多いので、性別を意識する患者は少ない |
| 男性患者から必要とされる | 思春期の男児や若い男性患者と信頼関係を築きやすい |
| | 男性患者から羞恥心を伴うケアを受け入れられやすい |
| | 患者から必要であると言われる |
| | 女性看護師から男性患者の羞恥心を伴うケアを任せられる |
| 女性患者への羞恥心を伴うケアが困難 | 女性の羞恥心を伴うケアでは介入できない |
| | 思春期の女性患者への介入が難しい |
| | 働けない診療科がある |
| 男性看護師に対する負のイメージ | 雰囲気になめやかさや母性・心情理解力に欠ける |
| | 短気な人が多く顔や行動に出やすい |
| | 女性看護師の方が気づく点が多い |
| | 雑や乱暴という印象がある |
| 女性看護師に比べ体力がある | 女性に比べ体力が強い |
| | 女性に比べ体力がある |
| | 不穏患者の対応は率先して行う |
| 職場での少数派 | 少数派であり意見が言えない |
| | 先輩、同期の男性看護師に相談する |
| | 女性が多い環境であることを受け入れる |
| | 経験年数を重ねると自分の意見が言える |
| | 男性看護師が一般的な職業と認められれば患者が受け入れやすくなる |
| 論理的な思考と ME 機器が得意 | 女性に比べ論理的な考察が得意 |
| | 知識があり細かい配慮ができる |
| | 女性看護師とは違った視点のアセスメントが行える |
| | ME 機器に強い |

| | |
|------------------|-----------------------------|
| 専門性を強める努力をしている | 勉強会や研修に積極的に参加するようにしている |
| | 自ら勉強し知識を身につけるようにしている |
| | 学会に参加している |
| | 指導者としての経験を積んでいる |
| | 専門的な資格をとるようにしている |
| | 研究をしっかりと行う |
| | 大学の修士課程に通っている。博士課程にもいきたい。 |
| | 資格を持っている先輩から助言を受ける |
| | 勉強するように心がけている |
| 女性に比べ生涯継続して働きやすい | 女性に比べ産休や寿退職が少なく継続して長期間勤められる |
| | 一生続けるつもりである |
| | 続けていく予定である |
| | 定年まで働きたい |
| | 看護師の資格をつかって一生生活していく |